

## 池田高校のキャリア教育について

北海道池田高等学校  
校長 島 芳 一

### 1 学校概要

#### (1) はじめに

本校の前身は大正7年創立の川合女子実業補習学校である。昭和に入り幾多の変遷を経て昭和24年に町立北海道池田高等学校と北海道立池田女子高等学校を統合して男女共学の北海道立池田高等学校（全日制普通科4間口、定時制普通科1間口）と改称、翌年には現在の北海道池田高等学校の校名となる。昭和37年には全日制普通科5間口となり、以後地域に多くの人材を輩出する。平成に入り生徒数の減少などから新たな学校像を模索し、平成15年度入学生から総合学科（4間口）に学科転換した。

現在は、1年次2間口の小規模総合学科校であり、卒業生の進路状況は、進学・就職それぞれ年度により概ね6割から4割の割合で変動がある。

本校の課題としては、小規模化に対応した教育課程・系列の見直しや総合学科高校の特色や魅力を深化させ、学校PRに努めることなどが挙げられる。

#### (2) 学校教育目標（めざす生徒像）

- 知性を磨き、創造力豊かに深く考える人（考える力・学力）
- 心と体を大切にし、思いやりのある人（人格形成・健康）
- 生き方や進路を探求し、進んで実践する人（生き方・進路）

#### (3) 系列と特徴等

系 列	特 徴 等
人 文・国 際	文学・地理・歴史・政治経済などの基礎的な知識を身につけ、異文化への関心を高め、地域社会や国際社会に貢献する態度を養う。
理数・自然科学	数学・理科等の基礎的な法則を学び、自然科学に対する関心を高め、科学的に理解する能力と態度を養う。
ビジネス・ メディア	情報や商業に関する基本的な知識と技能を習得させ、主体的、合理的に諸問題を解決する実践力を養う。
健康・スポーツ	健康・安全・運動に関する基本的な知識と技能を習得させ、健康増進を図り、生涯にわたり豊かな生活を送る能力と態度を養う。
生 活・芸 術	生活・福祉や芸術に関する基本的な知識や技能を習得させ、生活・文化の質的向上を図り、高齢化社会に対応する能力と態度を養う。

### 2 本校のキャリア教育

#### (1) 全体像

本校のキャリア教育は、1年次「産業社会と人間」（2単位）、2年次「総合的な学習の時間」（1単位）、3年次「総合的な学習の時間（課題研究）」（2単位）の授業を中心に取り組んでいる。それぞれの授業の年間指導計画と毎時間の学習活動の立案・準備（実施要領・ワークシート等準備）は進路指導部が行い、各年次の進路担当が担任・副担任と事前に打合せて実施している。

生徒がこれらの授業をとおして自己理解を深め、職業観を身につけ、そして自らの進路目標を達成することが本校のキャリア教育の目標である。

**ア 1年次：自己理解を深め、科目選択に向けて進路を知る学習**

職業観・勤労観の養成、自己理解（進路適性検査）、進学・就職についての学習、科目説明会・二者面談をとおして科目選択、コミュニケーション学習、ボランティア活動

**イ 2年次：インターンシップを柱にした学習**

事前学習（実習先の選択に向けた企業研究、電話依頼、日誌・履歴書・マナー講座、事前打合せの企業訪問（夏休み中）、インターンシップ（8月に3日間）、インターンシップ報告会、報告集の作成

**ウ 3年次：自己の進路課題を解決する学習**

自己の適性理解、学校研究・企業研究、履歴書・作文・小論文とは、進路講話、模擬面接、課題を設定したグループ研究、課題研究発表会

**(2) 「産業社会と人間」における取組**

本校では、①「職業決定に必要な知識を身につけさせ、主体的に判断する能力と適切な表現力を育てる」②「自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を育てる」③「将来の職業選択に向けて、高校で何を学ぶべきかを考えさせ、2年次以降の適切な科目選択を行う」の三つを目標に設定し、それぞれの目標に応じた取組を行っている。

①の具体的内容は、「職業を知る」をテーマに、まず情報収集の方法について学び、業種・職種を知り、資格や免許等が進路とどう関わりがあるのかを数回にわたって学ばせている。また、



【外部講師によるマナー講座】

外部講師による「インタビュー講座」や「グループエンカウンター」、「マナー講座」を実施してコミュニケーション能力向上を図っている。表現する力の育成に関しては、進路課題の明確化や自己理解の深化につながるテーマを設定し年間数回の進路作文を書かせている。「私のライフデザイン」、「私の高校生活」、「1年次を振り返って」などが主なテーマである。

②は、「働くことの意味」や「学生と社会人の違い」などを考えさせる学習や上級学校の種類を知るなどの進路研究を中心に、平行して進路適性検査（年2回）を実施し、自己の適性を客観的に把握させ、将来の職業生活に向け伸ばす資質・能力について確認させている。また、「性に関する講演」をとおして、異性の理解から他者理解（思いやりの心）、健康を意識した生活の創造へとつなげている。

③は、進路研究の深まりに合わせて、2年次の科目選択ガイダンス（シラバス解説・授業説明）を実施し、個別面談で進路実現につながる科目選択となるよう最終確認している。

**(3) 地域性を素材とした取組**

**ア 系列横断的取組**

本校は平成24年度から26年度までの3か年、道教委の「キャリア教育・職業教育推進事業」の指定を受け、系列横断的に事業に取り組んだ。「大学等との連携」、「大学生とのワークショップ」、「長期インターンシップ」、「起業家教育」の4本の柱に沿って活動した。

「大学等との連携」では、1年次の「産業社会と人間」でのコミュニケーション能力向上のための複数の講座の他に、課外活動ではあるが、農家に民泊して農業体験を行った。

「大学生とのワークショップ」では、北海道教育大釧路校の学生（卒業生を招き、進学希望の生徒が交流。学生からは大学生活の体験談や受験へのアドバイスをもらった。

「長期インターンシップ」は希望生徒を募集して参加させた。これまで2年次に3日間のインターンシップを行ってきたが、それ以上の日数増は授業時数確保の点からむづかしく、中小

企業家同友会とかち支部が構築した独自のインターンシッププログラムと連携し長期休業期間に実施した。

4つめの柱は「起業家教育」である。校内に仮想企業を設立し、商品開発チームと地域理解チームの2班で地域性を素材に企業活動を行った。地域の専門家の助言・指導を受けて、池田町の特産物を加工した商品は、セイコーマートやローソンとも連携し商品化され、全道で販売された。また、地域の魅力を見つめ直し、独自の観光プランを考案する活動を行った。札幌国際大学が主催する「高校生が考える北海道観光の未来」コンテストに応募して、優秀賞、最優秀賞と連続して受賞することができた。三世代で楽しめる観光プランなどの発想が評価された。池田町観光協会もプラン実現化へ関心を示している。



【最優秀賞：中央が本校チーム】

#### イ 各系列の特色を生かした取組

生活・芸術系列の「家庭」・「福祉」の授業においては、現場で活躍している保育士、作業療法士、介護士、福祉教育アドバイザーなどの地域の専門職員や視覚障がいの方などと連携した授業を実施している。芸術科目「器楽」では、民間非常勤講師によって本校の施設・設備を十二分に活用し、「箏」・「三味線」の日本の伝統音楽や「バイオリン」・「ハープ」といった西洋の楽器や音楽に触れる授業が行われ、豊かに人生を送る基盤作りのひとつになっている。

### (4) 成果と課題

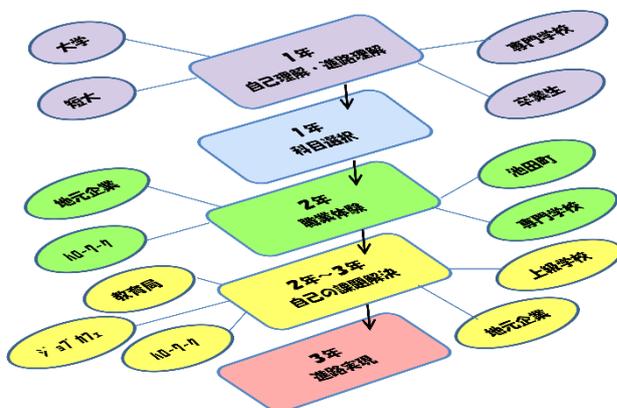
#### ア 成果

- (7) 道教委の指定事業を通じて、地域や関係機関との連携が強化され大きな教育効果が得られた。
- (イ) 1年次から3年次までの時間軸を縦のつながりと捉え、さらに各年次・各段階にふさわしい横の連携先を模索し、外部の教育力をうまく取り込むことで効果があがった。そして本校におけるキャリア教育の全体をまとめることができた。(イメージ図)

#### イ 課題

- (7) 小規模校となった本校の系列と教育課程の見直し。
- (イ) 総合学科における学びの特色であるキャリア教育について保護者・地域・中学校への説明と理解の深化。

【池田高校キャリア教育のイメージ図】



縦のつながり（1年→2年→3年）  
 自己理解と進路理解→科目選択→職業の実体験→自己の課題解決→進路実現

横の広がり（校内外の連携）  
 上級学校、卒業生、教育局、ハローワーク、ジョブカフェ、地元企業、キャリア支援業者、池田町